

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

※生成 AI による要約を行なっています。

令和 6 年 11 月 22 日 阿木地区区長会

司会

今日は、阿木地区の 12 区の区長が集まっている。脚本のない会議であるが、よろしくお願いします。

市長

この対話集会は市長公約の一環で、市民の意見を直接聞きたいとの思いで行なっている。今年 1 月に就任し、3 月から告知し、4 月から始め、今回が 26 回目。今日の対話集会は 12 人で、一番適切な人数と感じている。この 1 時間で多くの意見を聞きたい。テーマに沿って話し合い、市政に反映させるための集会。阿木地区での対話集会は 3 回目である。今後ともよろしくお願いします。

参加者

阿木地区は 12 区から成り立っており、少子高齢化が進んでいる。平成 6 年から人口が 2,000 人を下回り、高齢化率が市内で 3 番目の 44.1%。こども園や小学校でも子どもの数が減少している。今日は「人口減少を迎える中での阿木の今後について」というテーマで、自治会のあり方と移住定住について意見交換したい。自治会の役が多く、担い手が少ない現状であるが、住民の安心安全を一番に考える必要がある。

参加者

世帯数が減少しており、区の役を担うことができない組が存在する。そうした組は役員を免除している。少戸数の組を合体させ、組の数が 3 つに減少。区の役を減らす取り組みを進めている。役職を統合するなどして役員の負担を軽減しようとしている。

参加者

人口減少に伴い 4 つの班を 2 つに統合した。今後さらに高齢化が進む見込みで、他の組との合併も検討している中、組の財産整理も課題となっている。役員は兼務で対応しているが、名前だけの役職もあるため、不要な役職を減らしてほしい。

参加者

移住定住については、24 歳の若者が移住してきた事例がある。若い人にとって高額な土地の購入は難しいため、安価な住まいが必要だ。市に補助や支援があるかを知りたい。

市定住推進部長

現在、移住者への直接的な支援制度はないが、若い方の定着を支援する制度があり、新婚さん向けに住まいの購入などの補助を行なっている。

参加者

国や市の補助制度をどのように利用するかが重要だ。岐阜県内の住みやすさランキングで中津川市はトップ 10 に入っていない。阿木での人口減少対策が重要だ。住みやすい地域としての魅力を高める必要がある。

参加者

地域のコミュニケーションを図るため、一斉清掃や地域行事に参加を促進することが必要。

市長

阿木の移住者グループ「リコミン」は、阿木地区の貴重な財産である。今日のテーマについては、多くの地区が同じ悩みを抱えており、移住者との連携が重要である。

参加者

地域行事の簡素化が進んでおり、愛着を持ちにくくなっている。必要な行事は維持し、阿木への愛着を強化することが重要である。

参加者

阿木に住宅団地を整備することで、地元に戻りたい人や移住者に住まいを提供できる。

市長

阿木の空き家状況を把握することが大切。空き家の賃貸化や売買を促進するなど、住まいの提供が必要。令和 5 年度の空き家バンク登録件数は市内に 63 件あり、そのうち阿木地区は 2 件である。

司会

いろいろ意見があったが、人口減少対策として役を減らすことと、阿木に愛着を持つための取り組みを進めていきたい。

市長

地域を良くしようとする思いの意見をいただいた。阿木には多くの移住者がいることが財産である。移住者との連携が重要であり、地域独特の役職の見直しや統一的な取り組みが必要。市もサポートしていくので、今後も意見をいただきたい。

司会

阿木地区の役職や地域活動の見直しを進め、市と連携していくことが重要だ。阿木の未来を考え、支援をお願いする。